

## 日本学術会議 基礎医学委員会 神経科学分科会(第25期・第1回) 議事録

開催日時 令和3年1月11日(月) 16:00~17:00

開催場所 オンラインビデオ会議

### 神経科学分科会

オンライン出席者 伊佐委員長、柚崎副委員長、大木幹事、渡部幹事、西田委員、川人委員、  
渡辺委員、池田委員、入来委員、大隅委員、岡部委員、岡本委員、上川内委員、  
見学委員、合田委員、定藤委員、平井委員

オブザーバー 上口連携会員、仲嶋連携会員、佐倉先生(特任連携会員候補)

欠席者 岡野委員

### 議題

1. 委員長の選出
2. 副委員長、幹事の選出
3. 前回議事要旨の確認
4. 特任連携会員の承認
5. 第25期の課題

資料1: 委員名簿

資料2: 前回議事要旨

資料3: 特任連携会員推薦(佐倉統先生)

資料4: 二部分野別委員会・分科会委員長へのアンケート

資料5: 公開シンポジウム「現代社会とアディクション」の開催について

(参考資料)

- ・「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて(中間報告)」
- ・井上内閣府特命担当大臣(科学技術政策)と梶田日本学術会議会長との意見交換に関する大臣のご発言
- ・「井上信治科学技術政策担当大臣との意見交換について」
- ・日本学術会議第25期 幹事会記者会見資料

### 議事

#### (1) 委員長の選出

渡辺委員を世話人として、各委員の自己紹介が行われた。

渡辺委員を世話人として、委員長の選出が行われ、岡部委員から伊佐前委員長が推薦され、委員長に選出された。

## (2) 副委員長、幹事の選出

伊佐委員長から、副委員長に柚崎委員、幹事に大木委員、渡部委員が指名され選出された。

## (3) 前回議事要旨の確認

伊佐委員長から、前回議事要旨の紹介があり、前回分科会からの進捗として、(A)マスタープランの提言は、ロードマップのヒアリング対象とはならなかったこと、(B)コロナ禍でのメンタルヘルスについての緊急提言は、学術会議からでは間に合わないので、脳科連から、「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に係る メンタルヘルス危機とその脳科学に基づく対策の必要性」として、6/25 に緊急提言されたことが報告された。

## (4) 特任連携会員の承認

伊佐委員長から、今期、神経倫理についての提言を出したいが、この問題を議論するためには実験科学の研究者だけでは限界があり、科学社会学、そして神経倫理学を専門とする佐倉先生の参加が必要不可欠であるため、特任連携会員に推薦し、神経科学分科会に参加していただきたいと意見があり、佐倉先生を特任連携会員に推薦することとなった。

## (5) 第25期の課題

### (A) 学術会議任命問題について

伊佐委員長から、学術会議会員の任命問題について説明があった。

参考資料「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて (中間報告)」の紹介があり、科学的助言機能の強化、対話を通じた情報発信力の強化、会員選考プロセスの透明性の向上、国際活動の強化、事務局機能の強化、日本学術会議の設置形態の検討など、学術会議内部から、学術会議の改革案が検討されていることについて説明があった。

西田委員から、自民党からの日本学術会議の改革に向けた提言が紹介された

[https://jimin.jp-east-2.storage.api.nifcloud.com/pdf/news/policy/200957\\_1.pdf](https://jimin.jp-east-2.storage.api.nifcloud.com/pdf/news/policy/200957_1.pdf)

柚崎副委員長から、学術会議は研究者からもその活動内容に対する認知度が低いので、改革案は、学術会議内部からだけでなく、学術会議外部の研究者も含めて議論すべきではないかとの意見があった。

### (B) 学術会議でのコロナ問題についての調査と議論について

コロナ対策について長期的な対策を考えるため、24 期に、新型コロナウイルスの学術研究への影響と対応に対する調査が行われた。今期も引き続き議論を続けていく。

### (C) 日本学術会議からのコロナ感染症についてのアンケートについて。

日本学術会議から、(1)第 25 期における新型コロナウイルス感染症に関連した公開シンポジウムの開催の計画について、(2) 第 25 期における新型コロナウイルス感染症に関連した審議や提言等の発出の計画について、(3) 二部全体として、または大規模感染症予防・制圧体制検討分科会で審議したいテーマについて、アンケートがあった。

池田委員から、(1)アディクションについてのオンラインシンポジウムの計画について、(2) コロナ禍によりアディクション問題が拡大してきているので、必要に応じて第 25 期においても提言を発出したい、(3)二部全体または大規模感染症予防・制圧体制検討分科会で、コロナ禍での自殺者の増加など、メンタルヘルス問題とともにアディクション問題を審議して欲しいとの提案があった。

シンポジウムについては、池田委員から公開シンポジウム「現代社会とアディクション」について説明があった。アディクション分科会、神経科学分科会および脳とこころ分科会の合同主催で 2020 年 4 月に公開シンポジウムを予定していたが、新型コロナウイルス蔓延のため 6 月に延期し、さらにそれも中止となった。現在、アディクション分科会ではオンライン公開シンポジウムを 3/28 に計画している。コロナ禍において、ゲーム障害やアルコール依存症が深刻化しているため、2020 年 4 月に公表した提言「アディクション問題克服に向けた学術活動のあり方に関する提言」およびその後の展開について、コロナ禍における新たなアディクション問題も含めた内容とする予定と説明があった。このシンポジウムを、神経科学分科会、脳とこころ分科会との合同主催にしたいと提案があり、神経科学分科会としては合同主催することとなった。

柚崎副委員長からは、メンタルヘルス全体について、脳科連から「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に係る メンタルヘルス危機とその脳科学に基づく対策の必要性」として、6/25 に緊急提言されたが、学術会議のチャンネルからも (内容を update して) 提言することも必要ではないかと提案があった。

(E) 神経倫理に関する提案について

次の分科会で論点をピックアップして、分担執筆を開始する予定。